

当会会員の(株)松本鐵工所(苫小牧市) 様が
6月17日付の日刊工業新聞に紹介されました。

道内で金型修理

14社・団体で技術研究会

自動車関連と並ぶ事業に

松本鐵工所

【札幌】松本鐵工所(北海道苫小牧市、松本絃昌社長、0144・55・1155)は金型の修理事業に参入した。同社が中心となり苫小牧・室蘭地域で「金型技術研究会」を設立した。2、3年内に大物加工などに対応できる技術の確立を目指す。同社は抄紙機の製作・据え付けといった製紙関連設備が主力だが、近年は自動車関連設備の製作なども手がける。自動車・金型分野を5年後に売上高全体の2割程度まで引き上げたい考えだ。

松本鐵工所は48年創業。製紙関連設備を中心に産業機械の設計・製作から据え付け、メンテナンスまで一貫して手がける。16年3月期の売上高は約30億円。

松本鐵工所は、紙の接機などを導入。金型工所専務が会長を務める。製紙業 関連だけでなく他の加 業を中心14社・団 界向けの事業に加え、 工分野への進出も狙 自動車関連設備など新 い、工場設備を整えた。 が参加。会員同士が連 分野の開拓に取り組ん 金型技術研究会は松 携して金型を扱う技術 できた。金型修理事業 江エンジニアリング 力を向上させ、地域で の自動車産業の地盤を への進出もその一環。 (北海道苫小牧市)や北 固めていきたい考え 2015年に約450 海道立総合研究機構工 だ。 0万円を投じ、マシニ 業試験場などと立ち上 ングセンターや特殊溶 げた。松本英久松本鉄

松本社長は「道内の金型修理を手がける企業が手いっぱいなので本州の企業に製品を戻している状況だ。修理は緊急性があり、地元に出せるようになることが重要だ」と話す。